

## 闇に浮かび上がる伝統の舞と面



中福の神楽(市指定・無形民俗文化財)

「中福の神楽」が4月19日に中福稲荷神社で行われました。その年の豊作を祈願する神楽にはさまざまな演目があり、今回は「やまたのおろち」「魚釣り」などが奉納されました。日が暮れる頃、笛と太鼓の音を合図に、舞が始まります。迫力ある格闘場面、おどけたしぐさや台詞の場面では、拍



古くから使われている面はひとつひとつに趣があります

手や笑い声が起きました。闇に包まれた神楽殿に、電灯に照らされた舞い手と面が浮かび上がり、幻想的な雰囲気を作り出しました。

## 満開の桜の下で



石田の獅子舞(市指定・無形民俗文化財)

4月6日に行われた「石田の獅子舞」。藤宮神社境内では、3頭の獅子と山の神が舞います。「干し物獅子」と呼ばれる腰を落として農作物を干すような動きが特徴です。また、女獅子隠しの曲目で、大獅子と小獅子が女獅子をめぐる争う様子は迫力満点です。

「伝統行事を絶やさないために、いろいろところでPRして後継者が続いてくれるとうれしいです」と話すのは、山の神役の澤田悠佑さん(写真左)。小学6年生の頃に獅子舞を始めて6年目になるそうです。勇壮な舞が繰り広げられる中、時折吹く風で満開の桜の木からは花びらが舞い、多くの見物客を楽しませていました。



## ふおとニュース



## 華麗な足技

明治初期に始まった「南田島の足踊り」。毎年南田島の氷川神社の社殿で行われ、2年に1度屋台に乗り町内を回ります。今年は4月12日に町内の引き回し、14日に社殿で足踊りが行われました。



足踊りを演じる人は、前方(客席)に頭を向けて仰向けになり、腰に座布団を当て両手両足を上げて人形と笠を巧みに操ります。友達に誘われて小学3年生のときに始めたという谷津修斗くん(中学1年生・左上写真)は「毎週ある練習も楽しいから続けられています」と笑顔で話してくれました。両日足踊りを演じ、屋台には初めて乗ったという榎田快理くん(中学1年生・右下写真)に話を聞くと「狭くて動いている屋台の上で演じるのは大変でしたが、またやってみたくです」。見ても演じて楽しい伝統芸能が若い世代に受け継がれていました。



南田島の足踊り(市指定・無形民俗文化財)